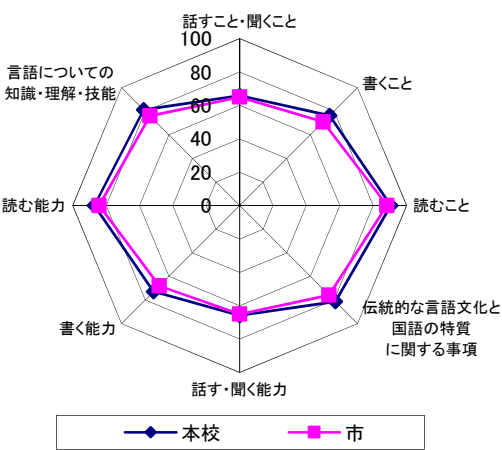


宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	65.9	65.0	62.9
	書くこと	76.2	70.9	71.3
	読むこと	90.7	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.2	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	65.9	65.0	62.9
	書く能力	72.9	68.0	68.0
	読む能力	87.1	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	81.2	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

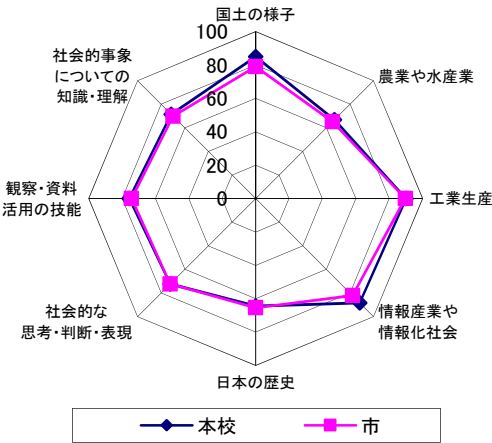
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均を0.9ポイント上回っている。 話し手の意図を考えながら、話合いの内容を聞くことの正答率は83.2%で、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができる」の正答率が、市の平均を1ポイント下回っている。	・国語の時間以外にも、グループやクラス全体での、話合い活動の充実を図り、テーマに沿った話合い活動ができるよう指導していく。また、朝の会や学級活動などの時間を活用し、相手の話に真剣に耳を傾けられるような指導を心掛ける。
書くこと	○市の平均を5.3ポイント上回っている。 特に、資料を読み取って、文章に適切に表すことは、市の平均を7ポイント上回っている。また、自分の意見と理由を区別して書くことの正答率は、84.6%と高い。	・算数や社会でのグラフの読み取りや、総合的な学習での表現活動など、国語以外の教科においても書く活動を積極的に取り入れていく。またその際に段落構成等も意識して書かせるようにしたい。
読むこと	○市の平均を2.3ポイント上回っている。 特に物語文では、すべての設問で市の正答率を上回った。 ●説明文では、「文章の内容を的確に読み取ることができる」の中で、市の正答率を3.5ポイント下回る設問があった。	・物語文では文章に即した読み取りを継続して指導していく。また説明文では段落構成を意識した読み取りや、事実と意見の関係をとらえた読み取りの指導を心掛ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均を5.4ポイント上回っている。 特に「文の構成について理解している」の正答率は、市の平均を11.3ポイント上回っている。また、漢字の読み書きでは、すべての設問で市の正答率を上回っている。	・文の構成や漢字、熟語等については、プリントやドリルなどを用いて、繰り返し復習させ、引き続き習熟を図る。また、読書を推奨し、普段から言葉に関心をもつことができるよう指導していく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	85.0	79.1	74.9
	農業や水産業	66.8	65.1	63.7
	工業生産	90.2	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	88.3	82.2	73.1
	日本の歴史	64.4	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.2	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	75.7	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	71.4	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

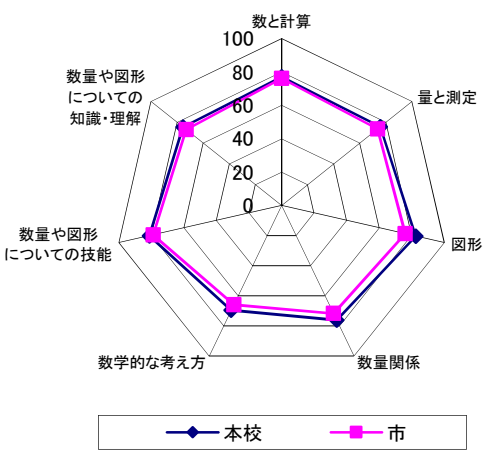
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○市の平均を5.9ポイント上回っている。特に「主な国の名称と位置」における問題が、87.9%と市の平均よりも8.9ポイント高い。	・今後も地図帳を活用し、国内外の地理に触れる時間を設けるなどしたり、自主学習などで進められるようにする。
農業や水産業	○市の平均を1.7ポイント上回っている。特に、米作りの作業工程と作業を行う季節に関する問題の正答率が67.3%と、市の平均よりも8ポイント高い。 ●日本の米作りの問題点について、複数の資料を読み取り考える問題では、71.0%と市の平均より7.4ポイント低い。	・身近な農業や水産業のニュースや新聞、インターネットなどの複数の情報を紹介したり、話題になっていることなどを朝の会やその他の教科での学習などの際に触れたりして、関心を高めていく。
工業生産	○市の平均を0.5ポイント上回っている。特に工業製品の種類に関する問題では89.7%と市の平均を0.7ポイント上回っている。	・今後も身近な生活と工業製品が結びつくような話題を提示し、児童がイメージしやすい教材を用意することで、関心を高める。
情報産業や情報化社会	○市の平均を6.1ポイント上回っている。特にマスメディアの種類に関する問題の正答率が92.5%と非常に高い。平均を6.7ポイント上回っている。	・情報教育との関連を図りながら、引き続きパソコンやスマートフォン等の身近な情報機器を例にとりて情報産業の役割や責任の大きさを情報モラルと関連させながら、考えさせるようにしていく。また、合わせて情報社会の危険性についても十分に指導していく。
日本の歴史	●市の平均を1ポイント下回っている。特に、「明治時代・大正時代」における文明開化に関する問題は、17.3%と市の平均を9.9ポイント下回っている。 ○「安土・桃山時代」における刀狩に関する問題の正答率は、62.6%で、市の平均より6.6ポイント上回っている。	・年表を掲示したり、図書資料・インターネットの情報などをその都度、紹介し関心を高めていく。また、自主学習などで歴史上の人物に関することや自分で調べたいことをまとめるように声を掛けていく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.1	76.2	72.9
	量と測定	75.7	73.6	70.6
	図形	82.5	76.0	72.1
	数量関係	76.2	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	69.5	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	81.2	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	75.6	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

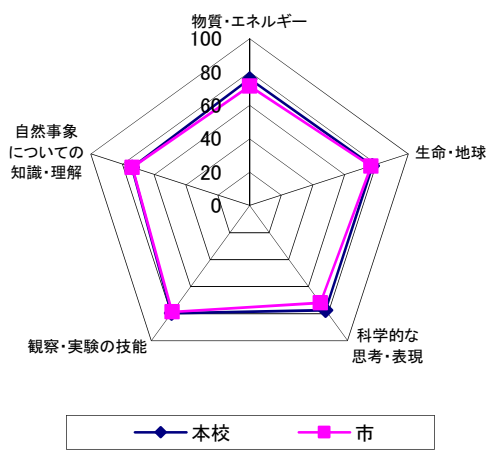
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○6年で学習した分数の計算については、本校の平均正答率はどれも95%以上と高い結果が得られた。 ●他の領域は、約2ポイント以上市の平均正答率を上回っているが、この領域は唯一0.9ポイントとなっている。具体的にみると、小数第1位同士のかけ算、真分数同士のたし算などが低く、5年生の学習の定着ができていない、計算ミスなどが考えられる。	・市の平均正答率より低い値を示したものは、いずれも5年生の内容であったので、6年生になってからも5年生の小数や分数の計算文章題などについて、朝の学習や家庭学習の課題として復習の機会を設け、学習の定着を図る。
量と測定	○この領域全体で、市の平均を2.1ポイント上回っている。特に、6年生になってからの学習で、単位量当たりの大きさ・速さの解答の仕方で、理由を説明することがよくできている。市の平均正答率より6.1ポイント高い。 ○面積と体積については、本校の平均正答率は、どの問題も85%以上の結果が得られた。	・これらの結果は、算数の学習であっても言葉や文章で説明する活動に充分に取り入れてきた成果と言えるので、引き続き指導を行いたい。 ・同じ単位量当たりの大きさの学習でも問題によってよい結果とそうでない結果が見られるので、数と計算同様、学習した後の定着を繰り返し問題を行うなどしてドリル学習に努める。
図形	○図形の領域については、どの問題もよい結果が得られ、本校の平均正答率は、82.5%で、市よりも6.5ポイント高い。 ○6年の学習内容の対称な図形については、線対称の対象の軸が何本あるかは、市より14.5ポイント高い。	・これらの好結果は、各学級においてデジタル教科書を効果的に使用し、映像によって分かりやすく具体的な授業を展開したことや、T・Tの授業で一人一人きめ細かに個別指導を行った成果と言える。引き続き、図形の学習の充実を図りたい。
数量関係	○数量関係の領域では、本校の平均正答率は、76.2%で市より4.4ポイント高い。 ○割合と比の学習においては、本校の平均正答率は、市よりも12.3ポイント高いという結果であった。 ●比例・反比例の関係をXとYを使って式に表す問題が本校の平均正答率は、市より1.1ポイント低かった。	・比例・反比例の表の読み取りから、決まった数の出し方や式への表し方などについて、ドリル問題などを数多く行わせ、技能の定着を図りたい。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.9	71.6	67.4
	生命・地球	77.4	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	77.5	72.1	68.8
	観察・実験の技能	79.7	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	74.0	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○市の平均を4.3ポイント上回った。特に、「電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるためには、どの実験を比較すればよいか」の問題においては、市の平均を17.7ポイント上回っている。 ●「酸素の捕集法」の問題は、市の平均を6.8ポイント下回っている。	・プリントや再テストなどで繰り返し実施し、基礎基本の定着を図っていく。 ・子どもたちの疑問や希望する実験方法を重視し、興味関心をもって実験を行うことで、基礎的な原理や法則が正しく理解できるようにする。
生命・地球	○市の平均を0.4ポイント上回った。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の問題においては、血液から不要な物を取り除く器官が腎臓であると答える問題では、市の平均を10.1ポイント下回っている。	・プリントなどで既習内容を復習し、基礎的・基本的な内容の更なる定着を図っていく。 ・体の中の内臓に関しては人体模型や映像を通して理解させていく。 ・実験を行うだけでなく、予想・仮説・実験・結果・考察における言語活動を意識しながら、まとめ方や考察を工夫する。

宇都宮市立陽東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペアやグループでの学び合い	・様々な授業の中で、コの字型など授業の形態を工夫したり、ペアやグループで話し合う活動を取り入れたりすることで、学び合いの場面を意図的に設定する。	・学習と生活についてのアンケートの結果、「勉強が好きですか」という質問についての肯定割合は76.6%で、市の割合よりも高く、昨年度の6年生よりも上回っている。また、教科ごとの調査においても、ほとんどの教科で市の肯定割合を上回っている。 ・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問で、本校の肯定割合は89.7%であり、市の82.0%を大きく上回っている。 ・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」という質問では、本校の肯定割合が市よりも10ポイント以上高い結果になっている。
・基礎基本の徹底 ・既習の学習の復習	・国語や算数などで、決められたノートを使用し、ノートの正しい書き方や正確な計算ができるようにする。 ・学習ドリル・プリントなど前学年以前のものも取り入れ、家庭学習などで活用する。 ・自主学習において、様々な教科を少しずつ復習させることで、基礎基本の定着を図る。	・アンケート「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」という質問について、市の肯定割合が82.0%なのに対し、本校は90.7%と高い。ノート指導を繰り返し行ってきた結果であると言える。 ・社会や理科については、どの領域も市の平均を上回っており、自主学習の内容や仕方を提案したり、支援したりしたことにより、学力が身に付いてきたと言える。 ・アンケートの結果でも、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」という質問において、市の肯定割合は51.9%であるのに対し、本校は69.2%と大きく上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・とちぎっ子学習状況調査でのアンケート「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達との話し合いを通して学び合いができています」などの項目で、4、5年生ともに県・市の平均を上回っている。取組みの成果が表れてきた結果だと言える。しかしその一方で、友達の前で自分の考えを発言することの難しさを感じる児童も多数おり、話し合い活動の場の設定やそれにおける支援の仕方を、さらに工夫していく。

・国・市の結果をみると、自主学習に進んで取り組む児童が多く、それが学力の定着に繋がっていることが推測できる。「学習していて、おもしろい・楽しいと思うことがある」「学習していて、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」という質問の肯定割合も高いことから、これからは基礎基本の徹底を念頭に置きながら、自主学習の工夫・奨励を進めていきたい。